



福島県

田中ヨリ子さん(権現堂) 瀬尾 恵子さん(西台)

取材者：認定特定非営利活動法人市民公益活動パートナーズ 古山・松田
取材日：8月24日

ちょっと不便だけど、 やっぱり浪江がいい。毎日が楽しい

安達運動場応急仮設住宅（二本松市）で知り合ったお二人は、浪江町に戻ってから仲良しです。

一緒に「ジョイビート」やダンベル体操などの活動に参加したり、浪江町の子供たちと高齢者の交流を図ったり、環境美化活動に取り組むチームなみえG&Bでも活動されるなど、ふるさとの暮らしを生き生きと楽しんでいらっやいます。



▲瀬尾恵子さん(左)、田中ヨリ子さん(右)
せっかくの機会なので、あえてマスクを外していただき、撮影させていただきました

その後、福島市内の「あづま総合運動公園」避難所にいた私の母を迎えに行き、さらに避難所を探しながら立ち寄った川俣町の道の駅で福島

◆3・11発生から避難された時の様子などを聞かせてください
田中さん 地震が起きた時は、新町のアパートに一人でした。友人が来てくれ、その晩は友人宅に避難指示が出た翌日から、友人の親戚がいる葛尾村や栃木県宇都宮市でお世話になりました。その後、千葉県にいた私の弟を頼りましたが、入院を控えていたので泊だけ。双葉町の友人が「さいたまスーパーアリーナ」(埼玉県さいたま市)に避難していると知って、弟に連れていってもらった後、二本松市の岳下体育館へ。ここではほとんど眠れなくて、川俣町の友人の家に約20日間、そして猪苗代町のホテルを経て、ようやく7か所目で安達運動場応急仮設住宅(以下、安達仮設)に落ち着いたんです。

田中さん 安達仮設は500人以上、240棟の大所帯で、7班に分かれていました。同じ浪江町でも震災前は全く交流のなかった人たちが安達仮設で仲良くなり、一番楽しかったです。自治会が立ち上がり、住民の皆さんやボランティアの皆さんとイベントをしたり、福島大学の学生さんたちが3か月交代で取り組み「いるだけ支援」のお手伝いをしたりしました。卒業生たちとは今でも交流があるんですよ。そうした活動の一つに、カラオケに合わせて体を動かす「ジョイビート」がありました。浪江に戻ってからは、週2回、権現堂集会所を借りて活動しています。最初の頃は、週1回で20人くらいだったのですが、週2回に増えました。でも、新型コロナウイルス感染症防止のために4、5月はお休みしたり、6月から時間を短縮したり、換気や消毒をしたりしながら再開しました。7月になってやっと通常に戻りました。それと、役場の呼び掛けで

ダンベル体操も月2回、やっています。浪江にはどんな思いで戻られましたか。どのように暮らしておられますか
田中さん 震災の前の年に母が亡くなり、墓を守りたいという思いが強かったですね。それと二本松にいた頃は、いつもよそ者という感覚が付きまとい、心穏やかではありませんでした。帰って来てからは、ぐっすり眠れるようになりました。私も一人暮らしなので、誰にも迷惑を掛けないように健康でいることが一番。だから、体を動かす活動には何があっても出掛けています。人間、気力が無くなったらおしまい。自分との戦いですよ。ところで、町には飲食店が増えましたが、衣料品や日用雑貨を扱う専門店もあると思います。なかなかに商売は大変でしょうが、住んでる人のためにぜひ実現させてほしい。町や商工会さんへお願いします。瀬尾さん 夫は大工なので、震災後、仕事にかかりつきで、自宅を直す暇はありませんでした。西台の家は少し直して、夫と息子と3人で住んでいます。昨年秋、体調を崩しましたが、菜園をやったり、ジョイビートなどに参加したりして、体を動かして始めています。帰って来た浪江は、震災前は気候も町の景色も違うような感じがしますが、不自由さはあまり感じません。毎日、楽しく暮らしています。3・11のような大きな地震が起きても、もう逃げたくはありませんね。



浪江の こころ通信

・第114号・

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、町内全域に出されていた避難指示は、平成29年3月31日に「帰還困難区域」を除き解除されましたが、多くの浪江町民は福島県内外に分散して避難生活を続けています。町を取り巻く状況が徐々に変化する中で、町民の皆さんがどのような思いで生活し、ふるさとへの思いを抱いているのか。

「浪江のこころプロジェクト」は、町民の皆さんの声を「浪江のこころ通信(※1)」を通してお届けし、皆さんの思いや暮らしぶりを発信・共有しようとするものです。

一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム(※2)が中心となり、全国各地のNPO、大学などの皆さんが取材を進め、浪江町と連携し「浪江のこころ通信」を編集・発行しています。

※1 浪江のこころ通信は、町民の皆さんがお話しした「こころ」を伝えることを大切にするため、取材者が聞き取ったまとめた原稿をほぼ原文のまま掲載しています。

※2 一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアムは、大学、NPO、企業、経済団体、行政などが連携したコミュニティ支援ネットワーク。仙台が本拠地。

「浪江のこころ通信/第114号」への 感想をお寄せください。

【連絡先】〒979-1592
浪江町大字幾世橋字六反田7番地2
「浪江のこころ通信」宛て
FAX 0240 (34) 4593

